

## (1) 法人設立と農地集積・集約化 事例⑤ (酒田市門田地区)

## 事例のポイント

- 人・農地プランの話合いを通して、水田農業の効率化及び機械の集約化に関して地域の合意のもと集落営農組織から法人に移行した。

## 地区概要・特徴

- 当地区は、稲作及び大豆作を中心に一部砂丘畑との複合経営を行っているが、耕作者の高齢化や機械更新負担増など課題が顕著化していた。

## 取組み経過・支援等

- 平成 19 年に門田地区集落営農組合（集落営農組織）を設立し、農地の維持・保全を図ってきたが、現在の農業情勢を踏まえ、効率的な地域農業を図るため、地区の話合いによる合意のもと、平成 28 年 1 月に「農事組合法人もんでん Agrist」を設立した。
- 農地中間管理事業を有効活用することで、地権者の同意が得られた。

## 成果

- 集落営農組織の法人化を行うことにより、経営基盤となる 26.93ha の農地を機構から借り入れた。
- 地域集積協力金の活用
  - ・機械購入
  - ・法人運営費



キャベツの定植状況

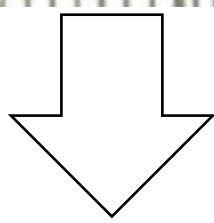


キャベツの収穫状況

**事業導入前**



黄色：担い手が利用する農地  
赤線：地域集積協力金エリア  
緑線：人・農地プランエリア



**事業導入後**



赤色：担い手に集約した農地  
赤線：地域集積協力金エリア  
緑線：人・農地プランエリア

項目	地域面積①	担い手面積②	うち機構借受面積	担い手数	集積率②/①	主な担い手
事業導入前	40.25ha	26.93ha		1 経営体	66.9%	農事組合法人
事業導入後		26.93ha	26.93ha	1 経営体	66.9%	もんでん Agrist